

今回は自治会の盛衰について取り上げました。確固とした組織を持って運営されている自治会もあれば、成り手不足、高齢化などで脱退者が相次ぎ、消滅の危機が見えているところもあります。無理に「組織化の縛り」で繋ぎ止めるにも限界がある一方、地域コミュニティを守る団結の象徴である「災害時・非常時の連絡体制、ゴミ処理分担」などを軸として「連絡網の再整備」を行なって地域各戸の絆を繋ぎ止めることも重要ではないか、それに市としてどう関与していくのかを質しましたが、労力と予算を使って取り組む姿勢にはなく、地域の「共助」に任せる風潮が強く出されています。

次に市の事業にもっと民間を活用する、市は後ろで取りまとめと間違いないかのウオッチ役で良いのではないかと考えを出し追及しましたが、指定管理をもっと自由に任せるなどの発想に立っておらず、他市町での成功事例を見ても、蓮田市にはやや民間不信的な空気もあって、先の道のりは長そうだと感じました。

新しい蓮田の未来を創ります!

市民クラブ未来

蓮田市議会報告

2024.10月号
Vol.6



会派代表 3期

菊池 よしひと

蓮田市大字蓮田1032-5
TEL・FAX:048-768-8381

建設経済委員会委員長



2期

斎藤 斉

蓮田市東1-4-21
TEL・FAX:048-768-4308

民生文教委員会委員
埼葛斎場組合議会議員



1期

武藤 やすし

蓮田市大字黒浜3110-35
TEL・FAX:048-764-2662

民生文教委員会委員
議会運営委員
蓮田白岡衛生組合議会議員



副議長 2期

はたくに お

蓮田市馬込1-350-8
TEL・FAX:048-764-0998

総務委員会委員
(副議長は慣例により会派に属さないこと
となっていますが、本会派設立の経緯から
共に報告させていただきます。)

自治会活動の現状と課題について

昨今蓮田市では「自治会からの脱会」が相次いでいると聞きます。私の住む地域でもご近所の方々が次々に退会され「ひとり班」になりました。このままでは地域のコミュニティが消滅し、災害避難など緊急時に大きな問題が出てきかねません。ここでの市の問題認識を質しました。

質問 蓮田市の自治会加入率は50%を切り、危機レベルと考えるがどうか。 **答弁** 重要な課題として認識しています。

質問 加入率減少の背景をどう認識しているか。 **答弁** 高齢のため自治会活動ができないなどの理由が考えられます。

質問 危機にある自治会へのテコ入れなどの対策を考えているのか。

答弁 次の役員が見つからないなど成り手がいない状況があり、自治会の負担が少しでも減るように研究していきます。

これら答弁から、

- 自治会が衰退しつつある現状は市として認識しているものの、その原因(動機)への分析とそれへの打ち手が少ない
 - 防災対応も含め色々な対応が「自治会任せ」になっており、いざという時への危機管理対応は進んでいない
- ことがわかります。退会の要因となっている役員の負担、特に国勢調査員業務、各種委員の選任などの任務について、必要なら市で代替するなどの具体策を講じるべきではないかと主張しましたが、具体的な対応への言及はありませんでした。そこで自治会の脆弱化で地区のコミュニケーションが途絶えることで、災害時の市民の安全に影響を及ぼす可能性がある点を質しました。

質問 災害時の対応を自主防災組織に委ねるのでなく、市が船頭として取り組まないと自治会が崩壊した地区の避難対応などが機能しないのではないかと。

答弁 災害時には「共助」の果たす役割が大きいことは実証済みであり、リーダー育成などの取り組みを実施しています。自治会に属さない人々へは避難所を拠点として個々の状況把握や物資配布など必要な支援を行っていきます。

質問 避難活動を円滑に行うには近隣間の連絡経路は必須。市が先導してSNSを活用し「災害時の連絡体制の再構築」を行うことが有効ではないかと。

答弁 地域コミュニティの再構築と災害対策の実効性という観点から慎重に研究をしております。

このようなマニュアル的な対応では本当にいざという時に「誰一人取り残さない災害対応」は実践できないと思われます。地区住民の仲間感・連帯感の再構築につながる「最初の一步」の具体的な対策を講じるよう、今後も強く求めていきます。

市政への「民間の力」の活用について

民間活用について、市としては「指定管理者導入」「新蓮田SA」などを進めてきたとしていますが、これらはあくまで市の主導権のもとに民間を絡ませて事業を行うもので、「民の知恵と力に任せてみる」発想に立っていません。

質問 地元企業が参画する形で中央大手企業との合併事業などの連携を模索するのはどうか。

答弁 民間事業者を活用する方が効果的と考えられる事案が出てくれば検討すべきとの考えです。

質問 企業版ふるさと納税が今後続く場合、蓮田市の事業を民の力やコストで進める観点で活用していく考えは。

答弁 有効な手法であり、公正性を確保し法に則って進めていきたいと考えます。

質問 市の事業に「民間が自発的に参画しに来るように引き込む」という攻めの姿勢への転換については。

答弁 そのような意識は有しているが、現実にとどの事業に的を定めて構築するかなどさらに内部検討が必要と考えています。

「民の活用」という考え方は市として持っているものの単に民間の参加余地を作るだけでは寄付を含む民間の関心や貢献を得ることは難しく、民間の事業として成り立つ=利益を見込める事業環境を公共が用意しそれをウィンウィンで育てていくという視点でこれからの蓮田市での事業構築を考えていくべきとの指摘を行いました。

例えば「中央公民館の老朽化再構築に絡めた蓮田駅東口周辺への多機能施設ビル」「蓮田の果物を断然美味しくする科学研究を事業化」などネタは豊富にあります。

「市外からは面白く思われ、市民は皆ワクワクする」いろんなプロジェクトを皆で提言し、作っていきましょう!



イメージphoto



イメージphoto